

平成18年(昭和31年)9月12日(火)

東海の古代

第 75号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市中区徳川1-729

メール frttokai@zm.commuja.jp

電話/FAX(カラー可) 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

今年の夏、天文学の分野で興味深いことが起こりました。惑星の定義をきちんとする。結果として太陽系を構成する惑星は9個から8個へと減らす。当然のことです。しかし、教科書で覚え、学校で習い、記憶に深く定着した事項に変更を迫られると、人は大きく動揺するようです。たとえ真実と遠く離れようと「身につけた常識」はそのままにしたい。「なじみのない真実」にはむしろ反発する。

これでは、九州王朝説が教科書に載るとなったら暴動でも起るかもしれません。

行ってきました

飛鳥周遊の旅

8月20日、台風の置き土産の猛烈な湿気と残暑のこもる飛鳥盆地に、有志7名で行って来ました。

■藤原宮跡(橿原市高殿町)

飛鳥の地は6世紀末から8世紀初めまでのほとんどの時期、推古から元明までのほとんどの天皇が宮をおいたところとされます。古田史学にとっても重要な地域であります。

まずは藤原宮・大極殿跡を表敬訪問。横田さんの説明に耳を傾けます。ただ木が生えるだけの鴨公神社は不思議です。

■畝尾都多本神社(橿原市木之本町)

香具山の麓、奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室で知識を仕入れようとしたのですが、日曜日は休館。近くにあるウネオツタモト神社に向かいます。万葉集に歌われる泣澤女の杜とされる地域です。

■畝尾坐建土安神社(橿原市八釣町)

ウネオニイマスタケハニヤス神社は式内社として格式はありますが小さな社。八釣山地蔵で知られる興福寺の方が一般には親しまれているようです。

■飛鳥資料館

予定していた大官大寺跡は通り過ぎてしまったので省略。庭園に亀石等の石造物を並べる資料館へ。隣の有料駐車場しかないのが不満。ここで知識を深めます。

■小墾田宮跡

甘樫丘の麓に車を止め、田んぼを眺めます。「古宮土壇」と呼ばれるところ。

■豊浦宮跡・豊浦寺跡(向原寺)・難波池

宮跡、寺跡は看板を眺めるだけ。住職の説明が長すぎるとの情報のため。ナンバ池というため池は不審。向原寺隣の甘樫坐神社も見る。高2.9mの立石があります。盟神探湯の神事が行われたとされます。

■水落遺跡

飛鳥川を渡り、明日香村埋蔵文化財展示室へ。しかし日曜日で休館。楼状建物の遺構である水落遺跡を見学。漏刻台(水時計)は本当にあったのか。疑問はかえって深まります。北の石神遺跡は省略。須弥山石や石人像は資料館で見られます。

■飛鳥寺

前回の飛鳥行でも見たので簡単にめぐります。安吾院が残るのみです。

■入鹿の首塚

西の門の先に、入鹿の首塚とされる花崗岩製の五輪塔があります。実際には南北朝期のものと思われます。

■飛鳥坐神社

式内社「飛鳥坐神社四座」に比定されます。事代主神・高皇産霊命・飛鳥三日比売命・大物主命が祭神とされます。催馬楽に歌われる「飛鳥井」が鳥居傍にあります。神々の団地のような印象。一番奥にある祠は石を神体としています。古田先生もよく話題とされる神社。

■酒船石遺跡（亀形石造物含む）

駐車場の隣、ちょっとした谷底のような所に炎天下、麦藁帽をかぶって待っていてくれた学芸員さんに解説を聞きました。水利施設と思われる亀形石造物は、現地に本物が置かれていました。

坂を登って酒船石にもご対面。表面に刻まれた文様の意味はやはり不明。大きさは実感できました。

■石舞台古墳

すっかり公園としても整備され、逆に遺跡としてイメージがつかみにくなりました。

■伝板蓋宮跡

明日香村役場の駐車場へ。ここがエビノコ郭とされる所と、横田さんが説明しても看板もありません。田んぼの中にちょっとした公園が整備され、大井戸跡が再現されている所を巡りました。遺跡は三層に別れるそうですが上の層を壊さない、という方針のため研究は進んでいません。

■橋寺（二面石）

仏頭山上宮皇院菩提寺が正式名。聖徳太子生誕ゆかりの場所ですが、創立当時のものはほとんど残っていません。

■川原寺跡（弘福寺）

なぜか創立の記録が日本書紀にはないが重視された寺です。遺構が少し見られました。

■欽明天皇陵・吉備姫王墓（猿石）

無理やり前方後円墳に仕立てられたような欽明天皇陵（檜隈坂合稜）。隣にある小さな森が皇極・孝徳の母である吉備姫王の檜隈墓とされる古墳。確かに柵の向うに四体の石造物がありました。しかし、どうしてこれが「猿石」なのか？

■高松塚古墳

飛鳥歴史公園館に車を止め、高松塚古墳へ。すでに猛暑で脱落者続出。辿り着いた壁画館は四時半で閉館。目の前をシャッターが下りていきます。壁画を解体中の古墳は工事現場のようになっています。

お盆を過ぎたのに続く猛暑と、台風の置き土産のすごい湿気に悩まされ、冷房の効いた車に立てこもる参加者が続出する中、何とか飛鳥を一周できました。終ってみれば30キロにも満たない行程でしたが、思い切り疲れしました。反省点の多い企画でしたが、参加者各位には得るところもあったと望みたいです。運転を引き受けられた竹内さん、お疲れ様でした。

10月例会に参加を

日程：10月8日(日)午後1時半～5時

場所：名古屋市市政資料館第1集会室(2階)

名古屋市東区白壁1の3(名古屋拘置所南)

地下鉄名城線「市役所」下車、東へ徒歩8分

名鉄瀬戸線「東大手」下車、南へ徒歩5分

市バス「市政資料館南」下車、北へ徒歩5分

〃 「清水口」下車、南西へ徒歩8分

〃 「市役所」下車、東へ徒歩8分

一応、駐車場有(無料)12台収容

南隣にウィルあいち(愛知県女性総合センター)ノ地下駐車場30分170円

参加費：500円(維持会員は無料)

今後の予定

11月例会：11月12日(日)(市政資料館)

12月例会：12月10日(日)(市公会堂)

例会はなるべく毎月第2日曜日に固定したいので会場をしばしば変更することになりました。よく確認してからお出かけください。

古田先生とその学問に興味のある方ならどなたの参加も歓迎します。また参加に際し事前連絡は不要です。遅刻早退もかまいません。

新刊紹介

福沢諭吉の戦争論と天皇制論

安川寿之輔(名古屋大学名誉教授)著・(株)高文研発行。3000円+税。

丸山真男らによって作られた福沢諭吉神話の虚構をあばく書です。「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」は諭吉の思想にあらず、和田家文書に由来する、という古田先生の説を支持すると表明されています。